

（沖縄県うるま市）

（地域防災拠点を活用した島しょ地域の活性化）

【テ - マ】 持続可能なインフラマネジメントの実現 **スモールコンセッションの推進** グリーン社会の実現 / その他（ ）【対象施設】 道路 / 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / **遊休施設** その他（ ）【事業方式】 **コンセッション** **その他のPFI** / 包括的民間委託 / その他（ ）

現在、地域の防災拠点として避難所に指定されている廃校を利活用し、島しょ地域が有する地理的特性を再定義しながら、跡地利活用のあり方を検討する。

①解決したい課題

【本事業により解決したい課題】

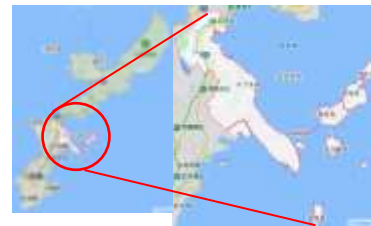
- ① 平成24年3月の閉校以来、具体的な活用が進んでいない公共施設（廃校）の跡地利活用
- ② 島しょ地域における人口減少や高齢過疎化、コミュニケーションの衰退
- ③ 公民連携を念頭に置いた活性化拠点計画づくり（島しょ地域における施設間連携の促進）

【本事業の対象としたい公共施設等の規模・種別・用途等の概要】

- ・名称：旧比嘉小（H24.3閉校） ・住所：うるま市勝連比嘉620 ・構造：RC造2階建
- ・各面積：延床面積（旧特別教室棟）：350㎡、敷地面積10,423㎡ ・利用状況等：地域の避難所に指定

【課題に関する取組状況など】・R7.12より、公民連携の一旦としてキャンプ（実証実験）を実施中

【うるま市の人口・位置・面積など】



- ・地勢：うるま市は沖縄本島中部に位置し、本島と島しょ地域が橋でつながり、本島唯一の有人離島を抱えている。
- ・人口：127,393人(R8.1.1)
- ・面積：87.03km²
- ・主な観光施設など：世界遺産「勝連城跡」、海中道路、闘牛、エイサーなど

②課題解決の方向性等

【課題解決に向けての制約や条件（期間、コストなど）など】

1. 地域との共存について

- ・現在、避難所として指定されていることから、当該施設の機能と役割を前提とした活性化拠点づくりが求められる。
- ・施設が所在するうるま市勝連比嘉は、人口391人(R5.9)の高齢過疎化が進む地域であり、跡地利活用にあたっては、地域（自治会など）との密な連携や情報共有が不可欠である。

2. 敷地について

- ・一部民有地（学校用地として借地）含んでいる。

3. 景観保全について

- ・浜比嘉島は沖縄らしい原風景（瓦屋根、石垣、フグなど）が色濃く残る地域である。平成29年に景観法に基づく「景観地区」に指定されており、島内の景観を1つの資源とした活性化づくりが求められる。



4. 島内公共施設について

- ・浜比嘉島には2つの自治会（浜、比嘉）と今回の対象施設である旧比嘉小（H24.3閉校）に加え、かつての中学校（旧浜中学校）の跡地利用（市事業）である「HAMA CHU」の公共施設がある。「HAMA CHU」は、現在ワーケーションや、地域交流を目的とした宿泊施設機能を有しており、指定管理者による維持管理運営を行っている。

5. 関連計画・法令など

- ・うるま市公共施設等総合管理計画(R4)
- ・うるま市勝連比嘉景観地区計画(H29)



③課題解決のイメージ・効果

<うるま市の効果>

- ・島しょ地域への活性化の波及
- ・地域住民の憩いの場として機能させることによるシビックプライドの醸成
- ・景観を軸とした地域ブランディングの推進

<事業者の効果>

- ・島しょ地域という市内県内でも屈指の地理的優位性を見据えた事業展開の可能性
- <住民の効果>
- ・拠点づくりへの参画に伴う主体的な地域活性化策の展開

その他(課題解決の方向性、シーズ提案への期待事項など)

- ・跡地利活用について、大規模な公共投資は望めないことから、民間投資を求めつつも例えば、旧校舎は、安全の範囲内で最大限現存の状態を利用した上で、「校庭」という空間の価値を再定義し、魅力創出の源泉としたい。
- ・上記4の「HAMA CHU」の他、旧宮城中学校（R8.4に取り壊し完了、更地予定）など、浜比嘉島ならびに島しょ地域全体の中での施設間連携促進の拠点としていきたい。